

平日にもかかわらず大勢の方々のお見送りをいただき、海上でも牛若丸、Kokopelli、Barbarian が伴走してくださり、最後には葉山マリーナのベイクルーズ船の見送りホーンを聞くことができ、本当に心地よい出発となりました。ありがとうございました。心より感謝しています。

6月4日(金) 快晴 風：南の風 10~16 ノット

10:10 葉山マリーナから出帆。

2ヶ月分の食料、飲料、満タンの軽油と水などで重量オーバー気味の「アンルチア」は、しかし気持ちよく水面を滑るように走り、12:30には三崎の手前まで来た。しかしその後、かなりの逆潮に合い、西へと戻されそうになったため、エンジンをかけて東京湾を渡り、海洋気象コンサルタントの馬場さんの指示に従い二つの低気圧をかわす為、千葉南の船形漁港の許可を得てビジターバースに係留。バタバタと出てきて睡眠不足気味の二人と一匹にとってゆっくりする機会を与えられ、この貴重な時間を満喫する。これお勧め。

6月10日(木) 晴れ 北の風 20 ノット

低気圧の影響が少なくなったとの情報を得て、午後3時に出港。千葉南端あたりから黒潮の影響で3~4メートルの波とうねりのなか「アンルチア」は7ノットのスピードで爆走。馬場さんからのアドバイス：とにかく一刻も早く日本から離れること。

夜になり、満天の星の素晴らしさに大自然の中にいる実感がわいてくる。レーダーのアラームをセットして寝る。

6月11日(金) 晴れ 北の風 7 ノット

風は落ちたがうねりが大きく、スピードが2ノット不足のため、機帆走。風力発電(ふーちゃん)の働きが十分ではないので少し不安。

ヴォッチオフの昼ねをして起きるとジブファラーにトラブル発生。風が落ち着くのを見計らい、二人でジブセイルを降ろす。ボースンが原因を突き止めようと必死になっているので、私はヴォッチのつもりで何気なく進行方向を見ると、約20メートル真正面に濃い茶色の15メートルほどの物体が浮かんでいる。よく見るとマッコウクジラ！が2,3頭時々潮を吹きながら日向ぼっこしている。あわててエンジンをかけて後進すると鯨たちは潜水始める。マッコウクジラの上半分をあれほど鮮明に近くで見たことが無いので、とても感動。あまりにも急な出来事で写真を取れず残念。ジブは何とか巻けるようになり作業は終了するが、しばらく興奮が収まらない。おまけにトロリング中だったにもかかわらず、エンジンをかけたので糸がラダーなどに絡まり、すぐにエンジンを止めて、ボースンは潜る羽目に。風で船が進み、体をロープで固定しながらの作業は見ててもとても怖かったが大事に至らず何とか糸を回収してほっとする。ボースンは；今日はトラブルやら鯨やらイベント盛りだくさんで飽きないね~と一言。満天の星に夜光虫、そして金星の輝きが一段と美しく海を照らしてくれて幸せな気分。

6月12日(土) 晴れ 風 8 ノット

ボースンの絶妙なセイルトリムでスピードは4ノット以上。うねりの高さが3,4メートルあるが、海はとても穏やかに感じる。太平洋の雄大さを身にしみて感じる。

夜になると大勢のイルカ達が「アンルチア」と競争しにやってきて、船の周りで楽しそうにジャンプをしたり、あらゆる芸を見せてくれている。その間中夜光虫がイルカの形で光るので、言葉では言い表せないほど美しい。クリスマスのイルミネーションも及ばないほど、自然は美しい光を見せてくれる。神秘的で幸せなひと時に感謝。

夜中過ぎには風がまったく無くなり、潮だけが船をぐるぐる舞いさせている。ブームがうるさいので、ヒープツーフをやるが、ゆれがひどくてなかなか眠れない。

6月13日(日) 晴れ 風 12 ノット前後

何とか風が安定してきてスピードが3 ノットはできるようになる。昨晩に引き続きイルカの群れが「アンルチア」とかわいらしい姿で競争している。

徐々に風が上がってきてスピードが6 ノットを越す。

船が振動するので、ジェノワを少し小さくすると安定して4 ノット超で走る。再びジブファールートラブル。ボースンの四苦八苦の末、ジブが巻いたり出したりできるようになり、とりあえずは一安心。

6月14日(月) 晴れ

夜中に上がった強い風が20 ノット前後まで落ちる。このころには猫のフリーもようやく餌をたくさん食べるようになってほっとする。人間のように手を使ってしがみつくなことができないのだが、猫はバランスを取るのがとても上手。大揺れの中でも体を左右にふりながら、平気で歩いている。すごい！

昼、ボースンはオケラネットで、日本を同時期サンフランシスコへ向けて出港したパシフィックシークラフト「ドルチェ」の滝田さんと会話をする。今年は同じ日に3組の夫婦が海外「ドルチェ」=サンフランシスコへ、「岳」=バンクーバーへ向けて出港したそうだ。夜半には風が再び20 ノットを超え一定のうねりのなかアビームで快適に走る。圧巻！

6月15日(火) 曇り

黒潮の真ん中を「アンルチア」は今日も快適なスピードで走る。風が吹いているのにふーちゃんは相変わらずあまり働かず(賢いので、電力が十分だと感知するとすぐに働きを止めてしまう)。

太陽電池は曇っているとこれもまたあまり働かないので、いよいよ発電機を回さなければならぬ。雨が降り出す。視界が悪い、レーダーを回すが電気が心配で二人とも少し気が滅入ってくる。それでも前方にきれいな虹をみて少し元気回復。

北緯35度まで北上したが、34度まで南下しないと次の低気圧が接近中との情報。風は20~24 ノットだが、波とうねりが高くアンルチアの船体がねじれるような動きをして、なかなか寝むれない。

6月16日(水) 曇り時々霧

霧の中のヴォッチは倍疲れる。見えないものを見ようとするのだから当然。今日はふーちゃんも太陽電池のたいちゃんも程よく働くので安心する。それにしてもこのようなうねりの中での料理はまだ慣れておらず、朝はヨーグルトを、昼は炒め物を、そして夜はスパゲッティーを飛び散らしてしまい、毎度、後始末がに苦労する。

北緯34度、東経150度を越えたので、時間を1時間ずらす。

霧が濃い波が1,2メートルになって今までと比べるとずっと穏やか。
霧で何も見えず何も聞こえず、まるでグライダーで空を飛んでいる感覚。
とても心地よい。

6月17日(木)曇り時々薄日がさすその後一時霧

風16ノット(スピード6,7ノット)快適。霧が出てくるが長続きはしない。
深刻な問題浮上。電気が足りなくなりそうで、発電機を始終回すと、軽油が持たない。い
ずれ冷蔵庫が冷凍庫を切る必要が出てくるとのこと。それならまずは暫くしたら冷凍庫を
切ることにして、冷凍庫にぎっしり詰まっている肉や魚を少しでも無駄にたくないの
で食べ始める。さっそくお昼は肉をふんだんに使ってのご馳走。
夜中に風が上がり、波も高くなり、ローリングが激しい。それでもボースンのこまめなセ
イルトリムが効いてゆれが落ち着く。

6月18日(金)うす曇

今日はボースンが狭いエンジンルームの後ろに入り、ふーちゃんのケーブルの接続を変え
る。2時間以上の作業ごくろうさま!なんとかふーちゃんの機嫌が直ったと思ったのも束
の間、良い風の中、一度は回るが、またすぐに動きを止めて考え込んでしまう。
苦労したのに残念!

午後から順風、同じ方向にずっと程よい風が吹き続けている。ハワイ沖の大きな高気圧の
端っこの風。心地よい。霧も晴れて快適。

「アンルチア」はパイロットハウスがあり、船内で操船もヴォッチできるので、ありがた
い。

6月19日(土)霧のち晴れ。気温26度。風15ノット。

太平洋の海の青さがまぶしい。なんて言う青だろう。すばらしい色。
ボースン10:00ごろから再びエンジンルームを開けてふーちゃんが働くように13:00
ごろまで大掛かりな工事をする。工事終了後もふーちゃんの症状が変わらないので、すこし
がっかり。でもできることを試みたので良しとしよう。

冷凍庫の中の肉や魚で、毎日せっせと「豪華」料理を食べている。
食後はヴォッチオフで寝ようとするが、ゆれが大きくなかなか寝られない。毎日、読書、
料理と刺繍に目的地の情報を読むぐらいなので、疲れ無いので眠くないのが当たり前なの
だろうか。

6月20日(日)快晴 北緯32度07分、東経162度58分

今日もまたボースンはふーちゃんの調整を試みる。船の手すりになり、ポートフックでふ
ーちゃんの羽を挟み、かなり危険な行動。見ていてハラハラする。調整が済んで、ポート
フックをはずしたとたんに、大きな一発波が来て、ポートフックを持って行ってしまった。
ボースン不機嫌。私は飛ばされたのがボースンでは無いので、感謝。

太平洋の真ん中で旗のついた網発見!葉山を思い出す。

夜は月の光が強烈でキャビンの中にまで入ってきて、その部分を昼間のように明るく照ら
している。海がとても美しい。月が沈むと今度は金星や他の星たちも宝石をちりばめたよ
うに輝いている。天の川をこれほどはっきりと見たことが無いので感動。

6月21日(月)快晴

朝デッキに出ると小さい飛魚が干からびているのを発見。もう少し早く発見できたら美味しく食べることができたのに残念。これからはデッキを要チェック。

ボースンが毎日の仕事の一部であるオケラネットと交信している間にGPSがフリーズ。あわてて、強制リセットをすると復活。ほっとする。

このところ毎日見かける一羽の鳥。群れないで寂しくないのかな。種類はわからないので、調べると海上で生息しているカツオドリ的一种のようだ。

風が弱く、潮がありあまり距離を伸ばせないが快晴で心地よい。相変わらずふーちゃんは働かない。このところ頻繁に発電機を回さなければならないので、不安。

6月22日(火)快晴。風8ノット

うねりがあるがとても穏やかに感じられ気持ち良い。「アンルチア」のパイロットハウスはさずが湿気が無くありがたい。アフトキャビンの布団を持ってきて日に当てるとふっくら。今日は本当に快適で海の上を滑るように走っている「アンルチア」も心地よさそう。速度も7,8ノットなのにゆれもほとんど無くありがたい!

6月23日(水)

今日は北の方を再び低気圧が進んでいるとのことで、海は多少荒れ模様。風は30ノット近くまで上がりゆれもひどい。それでものんびり読書をしているとヴォッチオフのボースンが起きてきて、セイルトリムをすると船のゆれも少なくなる。その後角度を少し北にむけると船は安定してきた。ほんの数センチのトリムでもこんなに違うものかと驚く。午後は曇り一時雨、風20ノット。こまめにセイルトリムをしてくれているボースンのお蔭でゆれも少ない。

夜は魚を焼こうと思いガスをつけようとするがつかない。ボースンがなんとか直してつけてくれてほっとする。

このところ電気不足でレーダーもつけられず、ヴォッチが辛い。

6月24日(木)快晴。北緯32度07分東経169度18分

風15ノット。速度6ノット。

シーガルネットを試みるがつかず断念。

またガスが出なくなったため、卓上コンロを出して料理する。ガスのトラブルはどうやら安全装置の電池が切れたとの判断で電池を変えて難なく解決。

夜はヴォッチオフで寝ていると、すごい音で目を覚ます。突風のような。気圧の谷に入ってしまったらしい。真っ暗で波も風も解らず、難儀。セイルをストームほどに小さくすると落ち着く。ジブトラブルが無くて幸い。しかし波が悪く雨もかなり降り出す。ボースンはずぶぬれになりながら必死にセイルトリムをするが、行きたい方向へ行けずゆれもひどい。なんとか朝までがんばる。風は落ちたが波が悪くて相変わらずのゆれでブームがしきりと大きな音を立てる。

ほとんど寝ることができない大変な夜だった。

6月25日(金)

相変わらずの波だが、夜中よりは安定して走る。一日中うす曇り~晴れ。風16ノット

スピード5ノット。「アンルチア」もボースンもよくがんばってくれて感謝。

方位を北へ向けたため、素晴らしい夕日が左側に見えるようになる。

6月26日(土)快晴。

北緯32度27分東経172度09分 風7ノットスピード3,4ノット。

穏やかに心地よく目標に向かって走っている。スピードも徐々に上がり始めている。

今日の夕日も圧巻！一日中良い天気恵まれ、波も無く穏やかに過ごせた。

今日は満月かな？月の光がいつに無く強烈で美しい。こう言う日はヴォッチが楽なのでありがたい。

6月27日(日)霧のち快晴

風は10ノット近くあるにもかかわらず、速度を見ると1,2ノット。逆潮。ボースンが起きてきてセイルトリムをして何とかスピードが上がる。

6月28日(日)雨のち快晴。

風も少し出てきて速度も4ノットまで出るようになり、ほっとする。早朝バウの方を見ると、カツオドリが「アンルチア」にとまって休憩している。まだ子供のようだ。「アンルチア」のクルーとしてヴォッチをお願いしたいのだけれど、1時間ほど毛づくろいを一生懸命したら再び寝てしまった。カツオドリは太平洋の真ん中から南にかけて、外洋に生息するというめったに見ることができない鳥らしい。くちばしの形も色もペリカンのようでピンク色、足は赤くて中々おしゃれ。たっぷり2時間ほど寝てから起き、再び丁寧に毛づくろいを始める。バウにいと時々波をかぶるので、ずるずるとパルピットから少しずつ、「アンルチア」の木の手摺へ移動してまた寝る。2時間ぐらい立つと飛び立ち、船の周りを旋回しては船へ戻るを繰り返していたが、上空に一回りほど大きいカツオドリをみつけると、その鳥(母親?)と一緒に飛んで行ってしまった。5時間あまりだったけれど、楽しかったありがとう！迷子?のカツオドリにまたいつか会えたらいいな。

午後から風も上がり、15ノットの順風で6ノット超えるスピード、アビームで走る。夜は月が水平線からオレンジ色の顔を出してきて、その後はまたすばらしい満天の星。水平線までぎっしり見えるので、船の明かりと見間違えるくらい。

6月29日(火)

ジェノワをフルに出しているのに、15,6ノットの風でヒールしながら6ノット超で走る。

今日はいよいよ冷凍庫を切る。あまりにも肉や魚が続いたので、ちょっとストレス気味だった。これでやっとその他の保存食料に移ることができる。そして何よりなのは電力が足りるという安心感。

6月30日(水)快晴 ややすすしい。

追っ手の風13ノットでスピードは4ノット超。今日は日付変更線の180度を朝の9:20(日本時間)に通過。これで全航程の半分近くきたのかな？後半の航海も穏やかでありますように。夕方から波がやや高いが、ボースンの微妙なセイルトリムで少しましになる。

7月1日(木)曇りのち晴れ、そして快晴

風15ノット、スピード4~5ノット

気象予報士の馬場さんからのメールで日本から同じ時期にサンフランシスコを目指してい

る{ドルチェ}の他に「岳」というヨットがアンルチアの後方を走っているとのこと。「アンルチア」はダントツだそうで、太平洋の真ん中でレースをしている訳ではないが、葉山のレースではいつも後ろの方を走っているの、ちょっとうれしい気分。「アンルチア」は重いのによくがんばってくれている。偉い!

葉山マリーナの大浦さんに中間報告の電話をする。

7月2日(金)快晴。風13ノット南西。スピード5~6ノット

潮に助けられている上、波が少なく感謝。久しぶりに蛇行も波のりも無い穏やかなセイリングを楽しむ。

最近料理、読書、勉強、刺繍の他クロスワードパズルに凝っていて時間が過ぎるのが早い。面白くて止められない。

このところ夜になるとどこからかやってきては航海灯の周りに集まり、おしゃべりパーティーを始める鳥たちがいる。時々アンルチアの周りを一周してまたバウの赤、緑の灯の周りとスターンの白い灯のところでとても賑やか。昼間は見ないのでどこからやってきたのだろう。結構小さな鳥たちだけれど、姿をよくみることができないのが残念。夜行性?不思議。いろいろと調べてみるとなんとなくミズナギドリ的一种のようだ。鳴き方がオウムのようなインコのように鳥らしくない。とにかくかわいい訪問者達に喜んでいる。

その仔たちが気をそらしてくれるので、霧の中のつらい夜のヴォッチも耐えられそう。

7月3日(土)霧っばいが薄日がさしている

夜は霧雨だったのかな?キャビンの中でのヴォッチなので、外の様子がわからない。風が無くジェノヴァをフルに出す。うねりも大きくは無く全体に穏やか。その後風は8~9ノットまで上がり、スピードは4ノット前後。久しぶりに本線を見る。

毎晩のように船へ遊びに来るミズナギドリは海上が生息地。飛び方がこうもりみたいだ。小さな体の割には羽が少し長い感じ。夜中になるといよいよ風が落ちてきて、ブームとジブシートが大きな音を立てていて落ち着かない。スピードを見ると1ノット足らず。潮に引かれて何とか進んでいるという感じ。それでもボースンがおきてきてセイルトリムをすると、ブームの大きな音が大幅に改善されて良かった。

7月4日(日)晴れのち曇り。風10ノット4,5ノットのスピード

海の色が黒潮の濃い青から薄い緑がかった青に変わる。夜になって風が21ノットまで上がり、ゆっくり寝たいのでセイルを縮帆するが7ノットのスピードで爆走。またスピードメーターが動かず。あまりにも大揺れで熟睡できず。

7月5日(月)風が落ちて、メインのブームがバタン、バタンとうるさくおきる。風10ノット以下、潮が強くて、どうしても南へと行かされる。夜になると順風が吹いて、波が落ち着いたので、「アンルチア」は滑るように5,6ノットのスピードを保ちながら帆走している。素晴らしい。心地よいので、夜中に久しぶりにコックピットへ出て穏やかな夜を満喫しているとまたイルカ達がたくさんやって来て、「アンルチア」と競争を始める。「アンルチア」を追い越しては得意げの顔をしながら戻ってくる。イルカ達との遭遇は何度経験しても飽くことなく、とても楽しい。

7月6日(火)晴れ。15ノットアビーム(アンルチアが一番好きなパターン)。

やっと北緯 38 度まで北上したのに北緯 35 度まで南下しないと荒天に会うとのこと。荒れた海を走るのは疲れるため、南下開始。スピードメーターを船内から回すと少し回復する。でもまだ完璧ではない。

今日もまたイルカ軍団が遊びに来てくれた。とても嬉しい訪問者。

7月7日(水)快晴。気温 27 度。ほとんど無風。太平洋の真ん中でプリンの様な海面。北緯 35 度に達すると再び海の色が素晴らしい藍色。果てしなく澄んでいて美しい。船の中を大掃除。ボースンはスピードメーターをはずして、海草やらごみやらを取り除く。その後ウィンチをばらして大掃除。きれいになった船の中で朝食。とにかく気持ちが良い。

オケラネットで「ドルチェ」パシフィック・シークラフトの滝田さんと話す(今回日本を同時期に太平洋横断を始めた 3 組の夫婦の中の一組)

おやつはコーヒーにチョコレート。午後には風が 10 から 16 ノット吹いてきて、スピード 4, 5 ノットのアビームでなめらかに走る。夜中の天使たちはまたもややってきて、おしゃべりに夢中。姿が見えなくてもかわいい。七夕の星を見つける。ベガとなんだっけアルタイル? 天の川もくっきり。北緯 34 度 40 分

7月8日(木)快晴。暑い。

日の出がきれいで写真を撮る。夜中 18 ノットまで上がる。逆潮で波が悪い。北東へ船を向ける。

7月9日(金)快晴。15 ノット、スピード 5 ノット

今日もまた小さな飛魚がデッキに。猫が喜んで食べる。

風が落ちる。

7月10日(土)

今日の朝日は水平線から素晴らしい輝きを放ちながら上ってきた。

久しぶりにトロリングをすると 1 m 以上のシイラがかかる。さっそくボースンが解体。

猫はおさしみと焼き魚で大喜び。私たちはイタリアンで美味しくいただく。

7月11日(日)曇り時々雨、海面が黒光りしている。

「ドルチェ」は数日前からラットのチェーンが切れて今日応急処理を終えて目的地をハワイに変更した。

太平洋のおおらかなうねりの中「アンルチア」は風がないのでくるくる舞いをしている。

それでもしばらくすると東よりから北東の風が吹き始め安定して機嫌よく滑り始める。衰退したハワイ高気圧から北の高気圧圏内に入ったようだ。今日も夕日が素晴らしい。

毎日の満天の星、朝日、夕日ととても贅沢。

夜になると風が 13 ノットの中 6 ノット超えのスピード。ヴォッチの私はジブセイルがフルに展開しているので少々不安に思っていると、ボースンが起きてきて早めにヴォッチを交代してくれてほっとする。金星の光が海面に尾を引いてまぶしく美しい。

7月12日(月)東よりの風 4~15 ノット ボートスピード 2, 5~5 ノット うす曇

7月13日(火)東よりの風 5~11 ノット。アビームで 2, 5~5 ノットのスピードですべるように走る。うねりが少なく楽。

猫が寒がって鳴くのでダウンコートをかけてやる。

相変わらず夕日が落ちて航海灯をつけると小鳥たちがやってきて、わいわいがやがや。灯りが珍しいのか、バウとスタンの航海灯の周りを楽しそうに飛び回っている。昼間も時折見かけるが、飛び方が忙しく、小さいのでじっくり観察できないのが残念。

7月14日(水)曇り時々晴れ

10ノット前後のアビームのからクヴォータリーの風で4ノット前後で走る。

北緯40度を超えるとさすが涼しいというか寒いくらいだ。

早朝、大型の本線が後ろを横切る。二人とも読書に夢中になって気がつかなかった。以降気をつけよう。久しぶりに船を見る。

海が黒っぽい色から、緑がかったいぶし銀のような色に変わる。とても穏やかで心地よい。

7月15日(木)濃霧から晴れから濃霧

日差しでると暖かく感じる。しかしすぐにまた霧がでてくる。霧のヴォッチは神経を使うのでとても疲れる。おまけに風が14ノットまで上がり「アンルチア」は爆走し始めたのでうれしいやら、こわいやら。このような時にはレーダーのありがたさが身にしみる。船が8マイル以内に接近するとアラームがなるようにセットして寝る。

7月16日(金)うすぐもり。寒い

自宅では寒くなるといつもランプの下でひよこ状態の猫は「電気つけて」と言いたそう。

海は穏やかで心地よい。7:19分ごろデッキにいたボースンが呼ぶので見ると、8mほどの鯨が「アンルチア」のすぐ右横を同じ速度で走っている(泳いでいる)。びっくりやら嬉しいやら。30分以上一緒に走っていたがそのうち見えなくなる。後で調べると尾びれの感じからナガス鯨と判明。楽しいひと時をありがとう。

7月17日(土)うす曇、穏やか。束の間の日差しが暖かく感じられる。

ボースンは絶えずセイルトリムに専念している。ほんの少しのトリムで0,5ノットスピードが上がる。毎晩のようにジェノワをフルに出しているのを縮めるかそのままにしておこうかとの議論がはじまる。ボースン：風は株のようだねと。このまま上がるのか下がるのか予想がしにくい。予想を立てようとするがこれが中々難しいと。まさに一か八かの世界。霧もでてきたのでレーダーのアラームをセットして寝る。

7月18日(日)うす曇、霧、太陽が部分的に海に光を差している。

ただいまの速度2,7ノット。このところ3ノットをきることが多い。まあしかし急ぐ旅ではないのだから。とは言ってもほんの少しでもスピードが出るとほっとする。それでも3ノットを超えない。荒れるよりはこの方が良いが、1週間もこの状態が続くと少しは機帆走をするが、やはり油が心配なのでほどほどにする。

7月19日(月)起きると船は寒天の中にはまっているような状態。おまけに霧がすごい。レーダーは回しっぱなしで時折、発電機を回したり機走する。

それにしても、毎晩船の航海灯の所に集まってきてにぎやかにおしゃべりをする鳥たちの名前は何だろう。オウムのようなインコのような、またはねずみのような鳴き方のおしゃべり?が夜中の間中続いている。楽しそうだ。夜行性?私たちにとっては天使たちのように守ってくれているように感じる。夕食を食べているとネジがひとつぼろっと落ちたような音。デッキを調べるとブームバングの下のほうのネジらしい。ボースン速やかに直す。

今日は一日中霧が晴れずに真っ白い世界。レーダーつけっぱなし、エンジンも長い時間1400回転でかける。

Victoria まであと 923, 5 マイル。エンジンを止めるとスピードはたったの 2, 8 ノット。でもこれでも少しは進んでいるのだから良しとしよう。

7月20日(火)あと870マイル霧後晴れ後霧

レーダーをつけていると安心して眠ることができるのがありがたい。

徐々に太陽が降り注いで船内は心地よい暖かさで猫もご満足。しかし風も無く夕方から再び霧が発生。思ったほど進めない。縄張りが違うのか今日は鳥たちが来ていないようだ。

7月21日(水)あと760マイル

霧のち晴れ。気温：夜14度、昼間20度

霧が消えてすっきり晴れると思ったが、そうはいかない。しかし10ノット前後の風が吹いてきてスピードが少し上がり始めるころ天気も快晴になり良かった。現地時間夕方5時ごろなのに太陽がまだ高いところにいる。北へ来たという実感。雲ひとつ無い空を見るのは久しぶり。東京ではこのところ猛暑が続いているとの情報。

今日の夕日も見事。何一つ遮るものが無く美しい。

7月22日(木)残り663, 2マイル 曇り時々晴れ

夜中に上がった風が朝まで続き、波がとても悪い。ゆれがひどくて二人と一匹ほとんど一睡もできず、厳しい。堪える。セイルを2ポンにすると風が落ちる、しかし波はそのまま高い。もう少しお手柔らかに願いたい。夜は風が再び25ノットに上がり、一発波が3回立て続けに来るとかなりつらい。ジブとメインをストーム用セイルほどにすると少し落ち着くが、寝られそうもない。それでもボースンは何とか安定させようとセイルトリムに努力をする。ボースン曰く「まるで拷問だね」。

7月23日(金)うすぐもり。風は12から14ノットまで落ちる。スピード4ノット前後。

Victoria まで550マイル。相変わらず波が悪くゆれがひどい。一発波が立て続けに来るとかなりつらい。

7月24日(土)残り466マイル。うねりが大きい。

バンクーバー島の手前では25~35ノットの風が吹いており、波は5.6メートルとの情報。これは回避したい。風は西北西から西南西へところどころ変わり、ほとんど真追っ手になるので、ブームがバタンバタンと定まらず、行きたい方向に行くのが難しくとにかく厳しい。

7月25日(日)曇り後薄日がさすが寒い 残り371マイル

前方に低気圧がいる海域へわざわざ行くのはあまり気が進まないの、風がある程度落ちるのを待機する。目的地近くでこれは辛いがしばしの我慢。あと350マイルという所でUターンしたら、今度はクローズホールドのゆれ。うねりも加わり立ってるのもやっと。しっかりとつかまっていないと飛ばされそう。後数日のガマンと自分に言い聞かせる。

7月26日(月)曇り時々薄日が差す 風20ノット前後

すでに折り返し地点を過ぎたが、もう少し戻る方が低気圧の影響を受けずに住みそうなので、昨日通った所を再び通る。クルージングでは待機することも大事。ただいま西経131度を通過中の低気圧を避けるためひたすら西経133度と134度を行ったりきたり

している。この辺りでもうねりが大きく擱まっていないと飛ばされそう。のんびりとは程遠い。低気圧の速度が遅いので、2日待機とっていたら3日待機になる。ここまで順調に来ることができたので、もう少しがんばらなければ。どちらの方向にも進みたくないの、ヒープツーをして寝ようとするが、時折やってくる一発波がとても大きいのでその都度びっくりして起きる。

7月27日(火)うす曇 風 20ノット前後

午前中はヒープツーで過ごす。お昼少し前からセイリングをするが、131,2度にあまり近づかないようにして、しかしほどほどに近づくようにするのは難しい。自然に任せることにする。夜中は再びヒープツーをして、相変わらず一発波に悩まされながらもぐっすり寝たのですっきり。

7月28日(水)風 15ノットまで落ちる。

それでも起きたくないくらいゆるるが、お腹が空いたので朝食の用意をする。気象予報士の馬場さんからのメールで今晚ぐらいからならゆっくり東の目的地に向かって進めるとのこと。最後になって待つことの辛さを十分味わったのだが、また進むことができると聞いただけでいっぺんに元気になる。いよいよ東へと移動開始。

夜ヴォッチをはじめたら、水平線にオレンジがかった明かりが。船かと思ったが、船ではなさそう。目を凝らしてみているとどうやら、水平線に沿って移動しているが金星のようだ。後戻りせずに進めるのは嬉しいが相変わらず波が高く、アフトキャビンで寝るのはちょっと辛いのでパイロットハウスで寝る。風20から23ノット。

7月29日(木)うす曇り 時々晴れ 風 18ノット ファンデフカ海峡まで残り223mile 相変わらず波が悪い。夜中は追い風で22,3ノット。5,6ノットのスピード。

ブローチングしっぱなしだが、なんとか寝ることができた。猫はすごい。船の中で一番揺れの少ないところを見つけてはちゃんと寝ている。私たちはあちこちつかまりながら船内を歩くのがやっとなのに、猫はとても上手にバランスを取りながら餌を食べにいたり、トイレへと移動している。

7月30日(金)風 25ノット

曇り後快晴 気温朝14度、昼間20度スピード5,6ノット

お昼ごろから風が13~15ノットまで落ちる(ブロー19ノット)が、波が悪いが徐々に波も落ち着きつつある。メインはフルセイル、ジブ1ポン。晴れているので心地よい。

ファンデフカ(Juan de Fuca)海峡の入り口まであと60マイル。本線に合う。

今まで見たよりは少し黒っぽく、おなかが白っぽいイルカたちが船の周りで暫く遊んでいる。

7月31日(土)風 18ノット 霧 04:00時 Vancouver島の入り口。しかし濃い霧のため未だLandfallはできず。Coast Guardにファンデフカ海峡に入る旨連絡。久しぶりに小さなプレジャーボートに遭遇。海峡の真ん中で釣りをしているこの船はレーダーでは確認できなかったの、これからは要注意。あちこちに鳥山が。なつかしい。Orkaを発見。その後アザラシが顔だけ出してるのを見つける。かわいい。

暫くすると Vancouver島の下の方の海岸の部分だけ霧の中から姿を現す。風17~18ノット

ト。見る見るうちに風が 25 ノットを超えスピードも 8 ノットを超える。潮が強い。ここは夜は 9 時ごろまで明るいのだが、それでも明るい内にはヴィクトリアに着くのは無理と判断。風は強いが波が穏やかなので助かる。ファンデフカ海峡の東まで来ると風は 35 ノットまであがり、潮が強くて有名な Race Rock では 3 ノットの逆潮。ここを曲がるとヴィクトリアまで北上するので、強い西風から逃げることができると思ったのが大間違い。なんと風と一緒に北上している。霧が深くてまわりの景色が全く見えないので不安。あとヴィクトリアまで 11 マイルちょっと。5, 6 マイル走った時に突然霧が晴れ、風も落ち着き始めヴィクトリアの町の灯りがとてもきれいに見えはじめてほっとする。しかし既に夜の 10 時を回っており真っ暗。明るくなるまで港の外で待つことにする。レーダーにアラームをセットするとひっきりなしに鳴るので、見ると大型の豪華客船やらコンテナ船など多数の船が「アンルチア」の前、後ろ、そして横を通り過ぎる。どうやら夜中に出発するようだ。これではアラームを消してヴォッチに専念しなければならない。交代で明るくなるまでヴォッチを徹底的にする。日の出がヴィクトリアの町を照らして美しい。これでやっと港へ入ることができる。港の中へ進んでいくと、小さなパトロール船が近づいてきて、税関のポンツーンなどの場所を書いた地図を渡してくれる。ヴィクトリアは町中がリゾートマリーナのようで、水上飛行機、水上タクシー、クルーズシップ、カヌー、Whale Watching のモーターボートなどがひっきりなしに走っている賑やかなところ。まっすぐ進んだ突き当りの議事堂のそばの税関の棧橋に横付けして、棧橋にある電話をかける。税関は船の登録番号、乗組員の数、生年月日、申告するタバコ、お酒のことを聞き。カナダドルで概算 10,000 ドル以上のお金のこと、そして果物、野菜はあるか、ペットは？などを聞き。15 分ぐらいで船へ行くので、必ず船の上で待つよう指示される。やってきたのは男性と女性が 2 名。彼らが一番気にしていたのは武器のことで、大量のタバコ、少しのお酒(ビール、ワインは航海中に全部のんでしまいました)はいっさい関税せず、ペットの証明書などはちらっとみただけで、親切に Victoria の情報をいろいろと教えてくれ

パスポートに入国のスタンプを押して、レポートナンバー(これは大事!)を置いて帰っていった。

かなり睡眠不足気味でおなかも空いていたので、近場のポンツーンに舫って、すぐ前にあるレストランのテラスに座り、大量のご馳走と赤ワイン一本を注文してすべて平らげた所に一人のアイランド系カナダ人の男性(ヨットマン)が来て、「ようこそヴィクトリアへ!、もし棧橋がまだ決まっていなければ、僕の隣の棧橋オーナーが今、休暇でどこかの島へ行っているが、使ったら良い」と言う。私たちがありがたいと言うと、早速棧橋のオーナーに了解をとってくれる。場所を教えてもらって行くと、町の中心で公園の横のとても心地よさそうで、陸電も水もあり、入り口は各自鍵で入る安全で穏やかなプライベートマリーナ。

感謝の気持ち一杯で、ほっとして、そしてワインが聞いてきたのか、二人とも長旅の疲れを取るべく深い睡眠に入る。

以上 日にちと時間はすべて日本時間です。

